



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

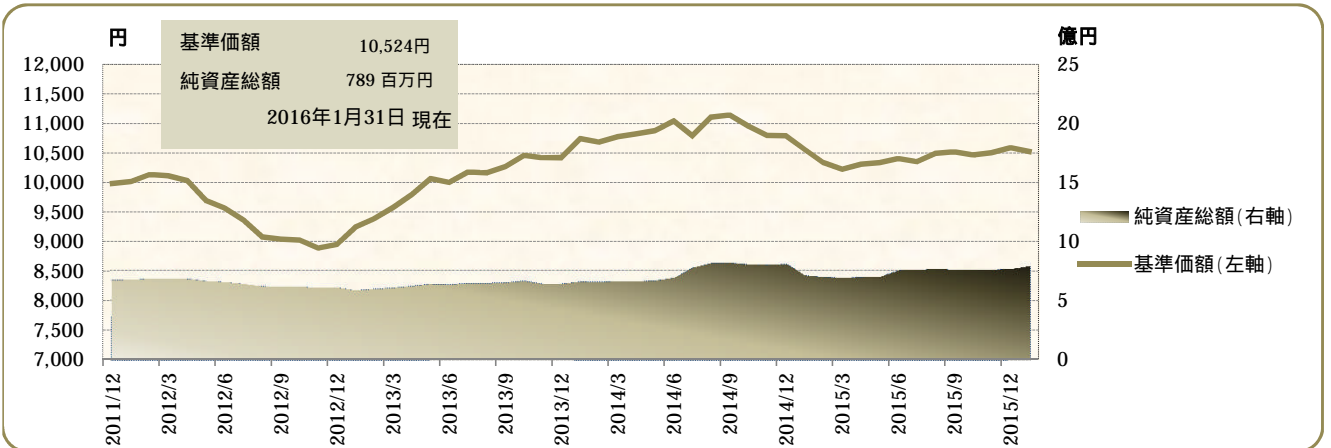
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年1月31日

## 基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

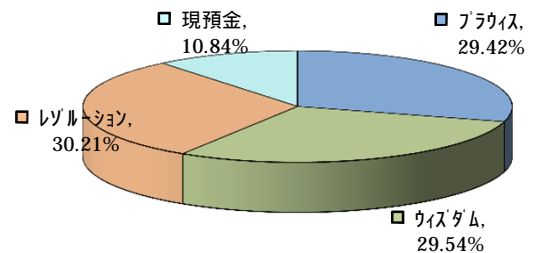
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%												-0.65%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673 百万円	
基準日:	2016年1月31日	
基準価額:	10,524円	対前月比 -69円
純資産総額:	789 百万円	対前月比 +25.7 百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	0.53%
基準価額騰落率	6ヶ月	1.63%
設定来	ファンド	5.24%
基準価額騰落率	TOPIX	97.92%
	日経平均	108.51%

## 投資対象ファンドへの資産配分 (2016年1月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	-0.72%												-0.72%
ウィズダム	-0.47%												-0.47%
レゾリューション	0.02%												0.02%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 相場動向

1月の株式相場は、日経平均で7.96%下落の17,518.30円、TOPIXで7.45%下落の1,432.07ptとなりました。世界経済の減速懸念から大幅な下落となりました。

上旬から中旬にかけては、人民元安や中国製造業PMIの悪化などから上海株が急落したことや、原油価格の低迷を背景に資源関連株が下落したことなどから投資家心理が悪化し、大幅な下落となりました。為替市場で一時1ドル115円まで円高ドル安になったことも、日本企業の業績への懸念につながりました。原油安から中東オイルマネーによる株式売却懸念も株価の重しとなりました。

下旬は、21日に日経平均で16,000円割れ寸前まで下落したものの、ドラギECB総裁が3月の理事会での追加金融緩和を示唆したことが好感され、反発しました。その後も日銀の追加緩和期待や円安などを手掛かりに、買い戻しが進みました。29日に日銀がマイナス金利の導入を発表すると、円安がさらに進み、日経平均・TOPIXともに大幅に上昇し、月間の安値までの下げ幅の約半分を取り戻しました。

需給面では、海外投資家が大幅売り越しとなる一方、個人投資家や信託銀行、投資信託、事業法人など国内投資家が買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、ゴム製品、空運業、食料品、水産・農林業、倉庫運輸が上位となり、海運業、銀行業、電気機器、保険業、鉄鋼が下位となりました。原油価格下落の恩恵を受ける業種やディフェンシブ業種が好調だった一方で、中国経済の成長鈍化の影響を受ける業種や日銀のマイナス金利で悪影響を受けることが懸念される業種が不調でした。

東証一部の売買代金は1日当たり2.6兆円と、高水準となりました。

ファクター面では、PERやPBRなどのバリュエーション関連の指標が大幅なマイナスとなりました。一方で、低ベータ、低ボラティリティなどの指標が好調で、グローバル経済への懸念や長期金利の低下を背景とした低リスク株選好が強く観測されました。

## 組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

### 【ブラウイス】

#### <ファンド運用状況>

1月の運用成績はJPYクラスで-0.72%となりました。年初からの急落により、自動車や電機セクターのロングポジションでの下落幅が相対的に大きかったこと、ショートしていた自動車株がTOBの発表により急騰したこと、また日銀のマイナス金利導入により銀行株が下落したことなどがマイナスの要因となりました。

セクター別の損益では、食品セクターでプラスとなり、輸送用機器、銀行、化学セクターでマイナスとなりました。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

2月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。日銀によるマイナス金利導入により、一方的な株安、円高傾向に歯止めがかかりましたが、外需産業を中心に中国経済の減速による企業業績の悪化が表面化してきており、上値も限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

### 【ウイズダム】

#### <ファンド運用状況>

1月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.47%でした。海外投資家が日本株から資金を引き上げる動きが見られ、物色動向も割安株がアンダーパフォームする中、機械、自動車等のロング銘柄が相対的にアンダーパフォームしたことでマイナスの収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで名古屋鉄道(9048)、小糸製作所(7276)、ショートポジションで横浜銀行(8332)、郵船ロジスティクス(9370)がプラス収益に寄与しました。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

今月の株式市場は横ばいを予想します。日銀のマイナス金利導入により一旦は円安・株高が期待されますが、人民元が切り下げられた中国景気の減速や米国の再利上げの動向を睨みながら一進一退の相場展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定した収益を目指します。

### 【レゾリューション】

#### <ファンド運用状況>

先月末の流れから、月初のみ小型株は優位であり、以降やや弱くなった月央以降は横ばい、出来高はやや細った状態が続きました。スタイル的には、先月に続きローリスクが優位となり、グロース、バリュエーションともに劣位となる展開となりました。

全体としてバリュエーションのポートフォリオにしている点からは厳しい環境であり、加えて一部グロース銘柄のロングが下がったことにより、全体としてややマイナスに終わりました。

ポートフォリオは、医薬品、建設などのセクター（個別銘柄の判断から結果的に電機をオーバーウェイト）、特に情報サービスを大きくオーバーウェイトしています。

ファンド全体ではバリュエーション傾向であるものの、ある程度確信的に一部グロース銘柄の組入を維持しています。

決算の見通しの良好なサイバーエージェント(4751)、テクノロジー関連ながら受注好調な平田機工(6258)のロング、高バリュエーションな新興銘柄のショートなどがプラスに寄与しました。一方、グロース性のある、これまで好調であった銘柄のロングがマイナス寄与となりました。

全体として、好業績銘柄のロングの上昇一服により横ばいのパフォーマンスとなりました。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

高バリュエーション銘柄のショートは継続するものの、通常バリュエーションの通常銘柄のショートが引き続き有効な印象であり、業績を重視した銘柄選択を進めます。

中国を中心としたグローバル経済の停滞が明らかになってきており、不透明感が強い中でのリバウンド狙いを避け、グローバル景気連動銘柄はニュートラル、内需グロース銘柄ロングを維持する方針です。

極端な小型バイアスははやや解消し、ミッドキャップ以上については、ほぼニュートラルに近い状況となりましたが、個別性のあるスモールキャップのロング部分で、パフォーマンスの確保を狙います。

業績 momentum の変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a> 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

## 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

## 当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

## ご留意事項

当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。

当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。

当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。**

**投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**